

令和6年度秋季企画展

古典の香り

加賀藩上級武士の教養と愉楽

開催期間：令和6年10月5日（土）～12月15日（日）

月曜休館、臨時開館10月28日（月）／臨時休館10月29日（火）



右伊勢物語歌留多／左自讃歌カルタ（当館蔵）

「伊勢物語歌留多」は、『伊勢物語』の歌をかるたに仕立てた「歌かるた」で、読み札（上の句）は文字のみ、取り札（下の句）は絵と文字で構成されている。絵は鮮やかな色彩を保つとともに、札全体に銀箔が散らされている。「自讃歌カルタ」は、鎌倉時代の私撰和歌集『自讃歌』の歌を書き込んだ歌かるたで、読み札には上の句と詠者名を、取り札には下の句を書く。札全体に金箔が散らされ、裏面には菊の模様を施した紙が使用されている。どちらも前田土佐守家伝来の箱におさめられた優品である。札に用いられている紙や、文字の書き方など、それぞれ違いがあっておもしろい。

開催にあたって

学問や芸術の分野において「古典」とは、創作や鑑賞の基礎・規準となり、後代の活動における典範となるべき根源的・基礎的価値を持つものです。日本の学問・芸術において「近世」つまり江戸時代は、古典から近代への転換点にあたる時代でした。

平和な時代が訪れ、また出版文化の隆盛によって多くの情報が流通するようになったことで、学芸活動にも変化がもたらされました。これまで貴族や一部の武家を中心とした中央社会で育まれてきたものが、地方や民衆にも広まっていき、より厚みを増していききました。加えて、過去の人々が育んできた知識・技術を振り返り、それらを研究し、秩序立てる営みがなされるようになったのもこの時代でした。

加賀藩の上級武士層も、政務や武芸にいきしむ傍ら、学芸の世界に通じていました。歌道・能・雅楽——本展では、その中でも特に江戸時代「古典」として親しまれた文学や芸能に注目し、加賀藩重臣である前田土佐守家に伝わった資料を中心に紹介します。教養として求められた「古典」と、その雅に匂い立つ香りの中に身を投ずる愉楽。加賀藩上級武士の周りに広がる「古典」の世界をお楽しみください。

前田土佐守家資料館

〒920-0981 石川県金沢市片町2-10-17

電話 076-233-1561 FAX 076-261-0806

<https://www.kanazawa-museum.jp/maedatosa/>

開館時間 午前9時30分～午後5時(閉館30分前までにお入り下さい。)

休館日 月曜(月曜祝日の場合は翌平日休館) 年末年始(12/29～1/3)

観覧料金 ◆一般 …………… 310円 ◆65歳以上 …… 210円
◆団体(20名以上) … 260円 ◆高校生以下 … 無 料

起居録88号 令和6年10月5日発行

協力:石川県立図書館

金沢市立玉川図書館近世史料館

印刷/(株)橋本清文堂

